

会場内発言者の意見概要

9月26日 松江会場

《住民A》

中国電力の社員には今回の問題を安全上は大したことではないとするような意識があり、再発防止対策が実際に徹底されるのか不安。

今後1～2ヶ月でゴーサインが出せる状況なのか。住民の不安に思いを巡らせ判断されたい。

《住民B》

土用ダムのデータ改ざん以降も点検漏れが継続した中国電力には運転させられない。

再発防止対策の形はできたが、本当に実効性があるのか。

松江市長から「住民アンケートは考えていない」「議会の意見を聞く」との回答があったが、議員が今回の件で住民に意見を聞いたことはなく、議会の意見を聞いても住民の意見を反映したことになる。

《住民C》

土用ダムのデータ改ざん問題から点検漏れに至るまで、トップの責任問題を厳しく見ている。

《住民D》

住民が納得できる方法、内容での情報公開があって、初めて安全文化の醸成と言える。

原子力安全文化有識者会議は、少なくとも一部委員を公募にするとともに、会議は住民に対して広く公開すべき。

国、県、市にも同様な情報公開を求める。

《住民E》

保安院は、今回の問題を中国電力から報告があるまで把握していなかった。従前のチェック体制の問題点と改善策を示されたい。

《住民F》

再発防止対策の内容についてより詳細に教えてほしい。

不適合管理というのは分かりにくい。もう少し説明してほしい。

《住民G》

今回の保守管理の不備は、やはり社内の体質の問題が大きかったのだと感じた。

業界では当たり前の言葉かもしれないが、「安全文化の醸成」では分かりづらい。「徹底した意識改革」「体質改善」を一番の旗印に、しっかり取り組んでほしい。

《住民H》

ものづくりの会社を、現場と幹部で視察してはどうか。
現場が変わること、そして、その変化が見て取れることが大切だ。

《住民I》

住民説明会の参加者は300名足らず。住民アンケートを実施すべきだ。

《住民J》

中国電力社員の安全に対する意識の低さに愕然とした。
県、市には重い責任があるのに、国や中国電力に遠慮した対応を取っているような気もする。

《住民K》

住民の安全を守る防波堤はやはり県・市である。国に対しても改めるべきことは強く話をされたい。

《住民L》

中国電力は、点検計画表の継続的な見直しに取り組むとのことだが、中国電力任せにすると不安であり歯止めが必要だ。